

生協のキャラクターが元気と笑顔をプレゼント！

『ふくしまキッズ博』

生協のキャラクターが子どもの笑顔を応援

コープふくしまとパルシステム福島は、8月4、5日、福島県福島市のあずま総合運動体育館で開催されたふくしまキッズ博に参加しました。これは東京電力福島第一原発事故による放射能被害で、野外で思いきり遊ぶことを制限された福島県内の子どもたちに、福島市内の4大学・短大や玩具メーカー10社など官民学が一体となって遊び場を提供し、「元気」と「笑顔」をプレゼントしようと開かれた催しです。

会場には、巨大プレイコーナー、大学生による工作や体操などの遊びが体験できる創作遊びコーナーなど盛りだくさんの催しが並び、親子連れを中心に3万6,000人の来場者でにぎわいました。

ふくしまキッズ博には、コープふくしまからの「全国の生協の着ぐるみキャラクターと福島の子どもたちがふれあう企画を行いたい」との要請で、全国の生協からほぺたん(コープネット事業連合)、こんせんくん(パルシステム)、アップルちゃん(エフコープ)、たんぽぽちゃん(福井県民せいきょう)、マットくん・たまねちゃん(コープぎふ)、パルちゃん(おおさかパルコープ)が集合、又、ユーコープ事業連合からはとれたてトマトくんのバルーンが参加しました。



全国の生協キャラクターが集結し、『ふくしまキッズ博』を盛り上げた。

「かわいい」「触ってもいい？」などの子どもたちのかわいい声に囲まれ、記念写真を撮ったり、ハグや握手をしたりと人気を集めていました。

参加したコープぎふの大坪光樹(おおつぼ・みつき)さんは、「マットくとたまねちゃんの県外出張は初めてですが、福島の子どもたちが笑顔で握手やタッチをしてくれて、来て良かったなと思いました。福島は大変な状況が続いていると聞いていたので、正直、こんなにたくさんの子どもたちが集まるとは思わなかったの、うれしかったですね」と感想を話してくれました。

コープふくしまのブースでは、配達車両を使っでの生協のお仕事体験や、交通安全教室バルーンMotoさんによるバルーンパフォーマンスなども企画され、会場の子どもたちから大人気でした。

特に生協のお仕事体験は、配送車から商品を下ろし、荷台に載せ、組合員さんのお宅に

運び、お届けし、次週の注文票を受け取ってくるという一連の仕事が体験できるとあって、2日間で約500人の子どもたちが参加してくれました。

その1人、福島市内から来た小学校1年生の女の子に体験の感想を聞いてみると、「荷物を(荷台で)運ぶのがおもしろかったので、またやりたいです」とのこと。実際に荷物を下ろしたり、組合員さんの家のインターホンを押ししたりなどを体験できるのが楽しかったようです。

またバルーンMotoさんのパフォーマンスショーも大盛況で、会場の子どもの多くがMotoさんのバルーンをお土産に帰途につけていました。



配送車を使ったお仕事体験が、子どもたちには人気があった。

風評被害の払拭を目指して

会場となったあずま総合運動体育館は、東日本大震災後の2011年3月13日から避難所として使われ、閉鎖される9月23日までに述べ11万人が避難生活をしていました。当時、取材を続けていた地元の新聞社、福島民報社の記者がある大学の大学生がおもちゃを持って避難所を慰問したことを取材した際に楽しく遊ぶ子どもたちを見て、「子どもたちがのびのび遊べる場をつくってあげたい」と、ふくしまキッズ博を企画し、実行委員会をつくり、1年がかりでの開催に至ったのです。

会場では、「ギネスに挑戦！」(福島北ロータリー主催)として、丸餅を使ってモザイク画を作るイベントも行われました。約2万3,800個の丸餅を使い、福島県の地図に、「I♡FUKUSHIMA」という文字を描き、来場者と共に見事完成させることができました。これまでの世界記録は静岡県で作られた60㎡、今回はそれを上回る64㎡のモザイク画が完成し、見事、世界記録を達成することができ、近々、ギネスへ申請をする予定です。

「風評被害に苦しむ福島の農産物を応援したいというのがギネスに挑戦した目的の1つです。また、原発事故によって子どもたちの心も落ち込んでいるので、皆が元気に参加でき、『福島も世界一になれるんだ!』と自信を持ってほしかったんです」と、「ギネスに挑戦！」を企画したふくしまキッズ博実行委員会の福島民報社広告局企画推進部長・馬場憲明(ばば・のりあき)さんはそう話してくれました。

福島第一原発事故は未だ収束していません。ニュースで伝わってくる福島の現状は決して明るいものばかりではなく、福島の皆さんもまだまだ暮らしに不安を抱えています。でも、一方で、会場に来ていた人からは、「最初の1年くらいは神経を尖らせて生活していましたが、最近は落ち着いてきましたよ。子どもたちも望めば屋外で遊ぶこともできるよ

うになりました」(福島市内に住む2人のお子さんを持つお母さん)などの明るい声も聞くことができました。

ふくしまキッズ博は、福島がもっと元気になれるため、継続的に支援していくことの大切さを実感した2日間でした。